

ロボット活用の実践機会提供へ

世界トップUR社認定トレーニングセンター

電子制御・FA機器で地場大手商社の三光電業（西区商工センター、森脇喜美代社長）は11月2日、協働ロボット製造で世界一のユニバーサルロボット（UR、デンマーク）認定のトレーニングセンターを南区比治山本町の展示場「ロボットパークひろしま」2階に開設した。中四国で初めて。製造業の自動・省力化ニーズの高まりを受け、協働ロボットの販売だけでなく、その後の活用に向けた実践機会の提供に乗り出す。メーカー公認トレーナー6人を配置して、顧客の一層高度な技術習得を支援する。

UR社のロボットはプログラミングが簡単なため必要に応じて再配置しやすいといった特徴がある。三光電業は2020年に代理店になり、主力の卸業と比べて課題解決の提案などで付加価値を出しやすい同分野を強化。ロボットパーク1階（協働ロボットなど計15台を展示）で導入を検討してもらい、2階のトレーニングセンターで顧客が最大限に活用するための実践指導を行う。同センターには可搬重量3kgのロボットアームとプログラミング用のタブレット、



タブレット、制御ボックス、センサー付きのミニコンベヤ、スライダロボット

クスの計5セットを用意。無料のオンラインング（基礎知識）のほか、1日5〜6時間の対面カリキュラム（2日間）を1人10万円で提供する。公認トレーナーの一人は米国人社員で、英語対応も可能。トレーナーは全て後、増員する方針。

23年7月期売上高は前年比7・8%増の110億円を計上。30年に約2倍増の200億円を掲げる。森脇社長は「現在のロボット関連の売上比は数%だが、30年には70億円を想定。技術提供会社に変化するためにシステムインテグレーターの育成などに一層注力していく」とする。